

令和2年7月豪雨災害記録誌

# 記憶の継承



熊本県 山江村

## 発刊にあたって

令和2年7月3日から4日未明にかけて、1ヶ月分の雨を一日で降らした線状降水帯による豪雨は、のちに「令和2年7月豪雨」を名付けられ、山江村を始め人吉・球磨郡市に未曾有の被害を与え、多くの生命と財産を奪いました。



本村においても、山田川・万江川流域の豪雨により、大規模な山腹崩壊を始め、道路や河川の崩壊、農作物への被害など広範囲にわたり甚大な被害を受けました。大量の土砂とともに流木の流出により、中流部、下流部は土砂で埋め尽くされ、特に万江川沿線は堤防越水により津波のような水が押し寄せ家屋の浸水、県道の崩落を始め橋梁が流失するなど壊滅的な被害となりました。その後の災害復旧工事は、2年2ヶ月が経過した今も工事費ベースで進捗率が20数%しか進んでおらず、このことが今回の被災の大きさを物語っています。

本村でも発災当初から役場をあげて、まさに命がけの活動により、助けを求める多くの住民の救助にあたりました。ただし、当初は現地へ入る道路が欠落し孤立した集落との連絡が取れない等の困難な活動を強いられました。発災当日から熊本県を始め自衛隊、国土交通省、消防、警察はもとより全国各地からの多くの関係機関の皆さまのご支援を賜り大きな支えとなりました。

甚大な被害をもたらした今回の大災害において、本村役場を始め各関係機関は不眠不休の活動により最大限の対応を行いました。この経験、記憶を今後の災害対応の教訓となるように、令和2年7月豪雨災害記録誌「記憶の継承」を編集いたしました。本記録誌の作成にあたりご協力いただきました皆さまに、心より感謝と御礼を申し上げます。

結びに本記録誌が、住民の皆さまの安心安全を守るために、今後の本村防災体制の一層の充実強化に寄与することを期待し挨拶といたします。

令和4年9月

山江村長 内山 慶治

# 目次

## 第1章 気象・出水の概要

- 1. 気象の概要…………… 1
- 2. 出水の概要…………… 2

## 第2章 被害の概要

- 1. 住家被害…………… 3
- 2. 生活基盤施設等の被害…………… 4
- 3. 農地・農業用施設の被害…………… 5
- 4. 山地・林道の被害…………… 6
- 5. その他公共施設等の被害…………… 7

## 第3章 災害対応

- 1. 初動対応…………… 8
- 2. 災害対策本部…………… 12
- 3. 消防団…………… 25
- 4. 支援機関…………… 26
- 5. 避難所…………… 29
- 6. 応急仮設団地…………… 32
- 7. 山江村地域支え合いセンター…………… 34
- 8. 住家被害認定調査・罹災証明書…………… 35
- 9. 税金・保険料の減免…………… 36
- 10. 生活再建支援…………… 37
- 11. 災害廃棄物…………… 39
- 12. 公費解体・自費解体…………… 40
- 13. ボランティア…………… 41
- 14. 支援物資…………… 42

## 第4章 応急復旧

- 1. 道路等の応急復旧…………… 43
- 2. 水道の応急復旧…………… 46
- 3. 農林業施設等の復旧…………… 48

## 第5章 復旧復興に向けての取り組み

- 1. 復興対策本部の設置と山江村復興計画の策定…………… 49
- 2. 復興村づくり推進委員会…………… 50
- 3. 復興ポータルサイト…………… 50

## 第6章 資料

- 1. 災害復旧事業（国庫補助）…………… 51
- 2. 逃げ遅れゼロを目指して…………… 54
- 3. 山江村ケーブルテレビのYouTube動画…………… 56